

平成 29 年度の学校評価目標

1 建学の精神

不言実行 あてになる人間

「入れる学校」から「入りたい学校」へ

- (1) 建学の精神「不言実行 あてになる人間」の具現化
- (2) 普通科と工業科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育
- (3) 授業を大切にし、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進
- (4) 生徒が自信を持てるようなきめ細かい指導
- (5) 一貫コースを中心とした高大連携教育
- (6) 豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現
- (7) 校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 志願者を増やし、募集定員を確保する (2) 女子生徒数増をめざす (3) 中部大学との「高大一貫教育」により他校との差別化を図る (4) 普通科、機械電気システム科の各コースの特徴を具体的に発信する 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 第1回学校見学会を部活動とその他の内容で2日間に分け内容の充実を図る等、参加者の満足度の向上を図る。 (2) 女子向けの広報物や学校紹介を増やし、女子のニーズにあった進路法を発信する。 (3) 「高大一貫教育」の実績で、近隣の他私立高校や公立高校との差別化を図る。 (4) 普通科4コースは、進路状況を違い、近隣の高校に勝る優位性、機械電気システム科では、他の工業高校にない資格や就職状況を、具体的にアピールする。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各教科、部顧問と連携を図り、学校見学会の充実を図る工夫を行う。 (2) 女子生徒の活躍を目に見える形でアピールし、見学会などでも女子生徒を積極的に参画させる。 (3) 中部大学への内部進学率は、他校との差別化のために欠かせない具体的な「高大一貫教育」の実績である。 (4) 各科各コースの特徴を、進路や資格など違いにより区別し、明確に外部発信できるように各科での資料づくりを依頼する。
総務部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 平成29年度沖縄修学旅行実施に向けての取り組み (2) 新しい形での新入生オリエンテーションの実施 (3) PTA総会、大学見学会の充実 (4) 実際の災害時に近づけた避難訓練の企画・実施 (5) 情報メールの登録の掌握と情報メールの有効利用 (6) クラス間でばらつきのない朝読書の実施 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 事前学習(ESDの視点を取り入れる)や自由行動計画の立て方など、該当学年と連携して取り組む。 (2) 総合検診日に校内。翌日、中部大学での研修と、従来と変更して計画している。 (3) PTA総会は、保護者の関心の高い進路に関する情報提供等を考え、参加者の増加を図る。また、大学見学会は、保護者のニーズにあった計画をする。 (4) 授業時の避難訓練の実施や家庭へのメール配信など実際に近づけた訓練を実施する。 (5) 保護者の望む情報の配信を考える。 (6) マニュアルを配布し、共通認識を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) ESDの視点から、異文化理解、平和学習、自然学習を念頭に、行動計画と事前学習の計画を行う。 (2) 高大一貫の第一歩として、本校での生活と中部大学の魅力の伝達を考えた企画を作成する。 (3) PTA総会は、総務・進路・学年連携で、参加者増加のための内容を工夫する。大学見学会は、事前に保護者の要望を調査する。 (4) 授業時の避難訓練を実施、安全マニュアルの整合性を検証する。 (5) 配信内容を分掌と連携すると共に、未登録者への連絡漏れがないよう配慮する。 (6) クラス間の歩調の乱れを無くす。
教務部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「分かる授業」「履修の定着」「家庭学習の励行」への取り組みの推進 (2) ICT教育の具体的な取り組み (3) 新校務システムへのスムーズな移行と効率的な利用の定着 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程・学年運営委員会の情報交換の場を積極的に活用し、生徒理解の場を設ける。 (2) 一部固定の電子黒板の設置を行う等、施設の充実と、利用の促進を図る。 (3) 情報部との連携を図り、新システム業務の円滑化を図ると共に、情報の有効利用を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 委員会を単なる情報交換の場にするのではなく、問題となる生徒の状態・成績・履修状況を早期に把握し、教務・教科・学年で対応する。 (2) ICT教育の研修会参加者の報告会や、利用者の授業見学会等を行い、教員の授業力向上に努める。 (3) 教務情報のデータの入力・利用に関する役割を明確化させ、情報の利用に不都合を起こさないようにする。
生徒指導部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導の徹底と生活規律の向上に努める (2) 登下校時のマナーの向上と交通安全に努める (3) SNS利用に関するモラルの向上 (4) 携帯電話取り扱いの指導の徹底 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、関係者との連携を強化する。 (2) 街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (3) SNSによる問題、いじめによる問題行動を防ぐため、細やかな指導姿勢で臨む。 (4) 携帯電話の校内での取り扱いについての規定に対する指導を徹底させる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒に関する問題点を関係者で共有し、初期対応の迅速化を図るとともに、問題行動を未然に防ぐために、日頃から生活規律向上のための意識づけを図る。 (2) 教員やPTAによる街頭指導、交通安全指導により、生徒のマナー向上を図る。 (3) SNSの問題やいじめの早期発見と早期指導を行うために、校内連携を迅速に行う。 (4) 携帯電話の指導について教員間が同歩調で指導を行う。
特活部	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全員参加型の生徒会行事を継承し、実施内容の質と魅力を高めるとともに地域へのアピールを行う。 (2) 部活動を物心両面で支援する。 (3) 教育相談を一層充実させ学年・分掌との連携を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 早い段階から計画案を提示し、各クラス企画案の調整と、担任や機械電気システム科の協力で新しい企画も考える。学校見学会での生徒会企画を工夫する。 (2) 部活動の壮行会や報告会を充実させる。また、部活動費の効率的な配分等を検討する。 (3) 教員とカウンセラーとの教育懇談会を学期に1回は開催し、生徒理解に関する資質を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 文化祭で、各クラスの企画紹介コーナーなど新企画を設け、早期に案内を作成し、地域住民にアピールする。また、学校見学会で本校を理解してもらえる生徒会企画を考える。 (2) 活動や部員数も考慮して部活動費を検討する。 (3) 教育相談で教員が抱える問題解決のヒントとなる研修を工夫するとともに、参加者を増やす。

情報部	<p>(1) 新校務システムの効率的な運用と今後の計画</p> <p>(2) ICT機器を活用した授業展開の検討</p> <p>(3) ICT教育の具体的な取り組みに関わる無線ネットワークシステムの構築検討</p>	<p>(1) 他分掌と連携し、新校務システムの試行稼働から、本格稼働を目指す。</p> <p>(2) ICT機器を用いた授業の導入に向け、教務と連携して準備検討する。</p> <p>(3) ICT教育に対応できる無線ネットワークシステムの構築を検討する。ネットワークの多様化が今後さらに進むことを考え、本校情報セキュリティポリシーを再検討し、整備する。</p>	<p>(1) 効率的で、使いやすいシステムを構築する。共通フォルダの閲覧、入力役割分担等を明確にする。ポータルサイトを構築する上で、学外への情報提供に関して具体的情報を検討する。</p> <p>(2) ICT機器導入事例に関わる情報を収集し、授業への活用を考える。</p> <p>(3) ネットワークの無線化に対して、最適な方法を具体的に検討する。情報セキュリティ対策について、本校セキュリティポリシーを改訂し、セキュリティに対する意識向上を図る。</p>
進路指導部	<p>早い時期から計画的な進路指導を行い、自分の関心や適性を自覚させ、適切な進路を確保する。また、中部大学との連携を寄り強化する。</p>	<p>(1) 模擬授業、説明会等で中部大学への関心を高め、入学者150名(学年42%)を実現させる。また、各科、各教科と連携し、入学後に対応できる十分な学力の定着を目指す。</p> <p>(2) 特進コース以外のコースからも受験を促進し、国公立合格10名を実現させる。</p> <p>(3) 各生徒の希望、適性にあった企業を選択できるよう指導し、就職一時合格率80%を実現する。また、入社後にやめない指導を強化する。</p> <p>(4) 過去のデータや具体的指導例など、どの担任も進路指導ができる資料等を充実させる。</p>	<p>(1) 進学補習、実力テストの内容や運営を、より効果の出るように見直す。</p> <p>(2) 生徒の進学・就職に関する情報を、進路指導部と担任団と共有化を図るとともに、それぞれの指導において、一貫化を目指す。</p> <p>(3) 過去のデータや具体的指導例を、学年会に早い時期から提供し、進路指導に生かす。</p>
普通科	<p>(1) 自学自習の確立をし、学習先頭集団となる生徒を育て、国公立大学への合格者を増加させる。</p> <p>(2) 中部大学への進学希望者を増やし、大学を4年間で卒業できる学力をつける。</p> <p>(3) コース毎に、早期に進路目標設定し、豊かな人間性を養いつつ、きめ細やかな進路指導に繋げる。</p>	<p>(1) 普通科共通目標の英語力強化のために、英単語テストや1年生のマナトレ学習を通じて学習の大切さを理解させ、英語検定に向けた、学習意欲の向上に繋げる指導をする。</p> <p>(2) 学習意欲を高める方策として、自習室の開設、学習量調査の実施、成績優秀者の公表を行う。</p> <p>(3) 進路検討会を通して、中部大学の理解及び連携を行い、指導方法の充実を図る。</p>	<p>(1) 生徒が努力の結果として進路を確保できる指導をするために、学習の大切さを根気よく唱え続けていく。マナトレについては、知識の定着が図れるよう指導法の改善を加える。</p> <p>(2) 自習室の利用を促進し、利用生徒のマナー向上に努める。通常授業においても授業に向かう姿勢の向上を図る。</p> <p>(3) 大学入試改革も視野に入れて、進路情報の共有化を図り、進路指導の充実にも努める。</p>
機械電気システム科	<p>(1) 資格・検定試験の合格者を増やすなど、生徒の専門的能力の向上を図る。</p> <p>(2) 地域貢献を視野に入れた対外的な活動の拡充と実績の向上を図る。</p> <p>(3) 機械電気システム科としての特徴づくりとその立案を図る。</p> <p>(4) 専門課程を学ぶ意義を理解させるとともに、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>(1) ジュニアマイスター顕彰取得率の増加や、社会的評価の高い試験の合格実績の向上を図る。</p> <p>(2) 各種競技会、地域のイベントへの積極的参加を教員や生徒に働きかける</p> <p>(3) 学校法人の行動計画、SPHの申請など、システム科の将来を視野に入れた計画を実施する。</p> <p>(4) 教員の資質向上のための研修を行い、授業の充実を図る。</p>	<p>(1) 資格試験を考慮した授業内容の工夫や、授業効率の工夫、設備の充実を図る。</p> <p>(2) 各種競技会の情報を早期に収集し、研究や準備を行う。</p> <p>(3) SPHの本校の取り組みを明確にするとともに、次回の申請の準備を進める。大学、幸友会及び一高会との連携の強化を図り、地域との協働についても検討する。</p> <p>(4) ICT機器を活用した学習システムを構築し、生徒の基礎学力の向上及び授業の充実を図る。</p>
1年生	<p>(1) 高校生としての自覚を持たせ、心身の成長を図る。</p> <p>(2) 学習では、基礎学力の向上を図り、実現可能な目標を設定させ、目標達成のための努力をさせる。</p> <p>(3) 将来の進路実現を見据え、課題活動等にも意欲的に取り組ませる。</p>	<p>(1) 学校生活を通して、ルールやマナーを守る。モラルを高める指導をすることで、規律正しい生活習慣と高校生としての自覚を持たせる。</p> <p>(2) 普通科は、英検3級以上を目指し、マナトレと、英単語テスト等で英語力向上を図る。機械電気システム科は、基礎学力の定着を図るために、マナトレ、クラッシーの導入で自学力の向上を目指す。</p> <p>(3) 様々な教育活動を通して、成功体験を積むことで、自信を持たせ、素直で豊かな心を持った生徒の育成を図る指導・支援をする。</p>	<p>(1) 高校生として基本的な生活習慣と、学習習慣の定着に重点を置いて指導する。そのために、教員間で指導の温度差が生じないように、学年団と分掌との連携を図りながら取り組む。</p> <p>(2) 安定して落ち着いた授業態度、成績向上に向けての取り組み、資格取得に対して、意義や必要性を理解させ取り組ませる。</p> <p>(3) 部活動、学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、ESD活動などに、積極的に参加させ取り組むように促す。</p>

2 年 生	<p>(1) 中堅学年としての自覚と責任感、行動力の育成を図る。</p> <p>(2) 基礎学力向上のための努力を継続し、さらに、応用・発展させる</p> <p>(3) 課題活動を通して人格形成を図るとともに、集団への寄与への意識付けを行う。</p> <p>(4) 進路目標の明確化と、進路実現に向けた準備と取組を行う。</p>	<p>(1) HRや集会での身だしなみやマナー等の指導を通して、生徒一人一人の学校への帰属意識を高め、修学旅行を見据えて、集団としての節度ある行動をとらせる。</p> <p>(2) 普通科は、英語検定の上位級獲得に向けた取組、機械電気システム科は、基礎学力向上プログラムの導入実施、ジュニアマイスター顕彰シルバーの取得を目指す。</p> <p>(3) 生徒会行事や部活動をはじめ様々なことに、中心的な役割を担い、協調性を持ち取り組むことで、社会的実践力を培う。</p> <p>(4) 生徒個々の進路目標を早期に立て、目標達成に向けた準備を早期に開始する。</p>	<p>(1) 日頃のHR活動や授業時から、規律良く学校生活を過ごすことで、特別なことでなく、当たり前になる意識付けを行っていく。</p> <p>(2) 英単語テスト結果集計等は、情報部との連携を図り、教員の負担を軽くすると共に、検定に関する内容を授業に取り込む工夫をする。</p> <p>(3) 自ら意欲的に様々な活動に参加できる雰囲気作りや情報発信を行う。</p> <p>(4) 担任だけでなく、進路指導部をはじめ多くの教員が関わり、進路意識の高揚を図る。</p>
3 年 生	<p>(1) 最上級生としての自覚や社会人を意識した行動をとれるように指導する。</p> <p>(2) 主体的に進路決定をし、それに向けて努力させる。</p> <p>(3) コース、系に沿ったきめ細かい指導と、積極的な資格取得を目指す。</p>	<p>(1) 全校集会、学年集会、HRを通して、講話の中で生徒指導を繰り返し行い自覚させる。</p> <p>(2) 4月当初より、中部大学をはじめとした進路に関する情報を提供し、自主的な取り組みを促す。</p> <p>(3) 学年団、教科担当、家庭との連絡を密に図り、生徒の変化を見逃さないよう指導を行う。</p>	<p>(1) 学年会、担任会を通じて、教員間の連絡を密にし、指導の温度差が出ないようにする。</p> <p>(2) 進路実現にむけて、正確な情報の提供を行う。複雑な受験システムについてアドバイスを行い、学習意欲の向上を図り、進路実現につなげる。</p> <p>(3) 進路実現までの明確な計画を、一人一人に立てさせることにより、各自が自覚して努力する姿勢をつくる。</p>